

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	PBL特別演習001 「福島から原発を考える」	開講学部	共通教育センター ※全学部共通科目
担当教員	村尾信尚・教授(学長直属特別任期制教員、日本テレビNEWSZEROキャスター)、時任隼平・専任講師(高等教育推進センター)ほか	定員	25名
履修基準年度	1年	開講時期	10月～(秋学期集中、土曜日の午後に2コマ連続開講)
概要	東日本大震災で起こった福島の原発事故をテーマに、日本テレビNEWS ZEROでキャスターも務める村尾信尚・教授が講師となり、福島県でのフィールドワーク(調査学習)などを実施し、原発問題やエネルギー問題に関する理解を深める。具体的には、約5名でグループを編成し、各グループで原発やエネルギーに関連するテーマを設定し、調査研究を進める。最終講義では、学生らが研究成果を政策提言として発表する。調査研究の過程では、2日間にわたり福島県でのフィールドワークを実施し、関係者への視察・ヒアリング調査も実施するほか、エネルギー問題に詳しい専門家などを招いた講義も実施し、エネルギー問題に関する理解を深めていく。		

<授業スケジュール>

回・日付	内容	備考
第1回・2回 -10.1	○問題提起 ○専門家による福島県の現状に関する解説 ○グループ分け、アイスブレイキング、取り組むテーマに関するディスカッション(時任)	
第3回・4回 -10.15	○取り組むテーマに関するディスカッション(時任) ○調査方法に関する実習 ・リサーチクエスト(問い)の立て方 ・先行研究レビューの方法 ・データ収集の方法	
第5回・6回 第7回・8回 (10.29, 30)	○福島県でのフィールドワーク(村尾、時任)	関係者等へのヒアリング等
第9回・10回 -11.12	○専門家によるエネルギー問題に関する解説 ○専門家を交えたエネルギー問題に関するディスカッション	ゲストスピーカー
第11回・12回 -11.26	○発表(政策提言)準備(時任) ・発表スライドの作成	
第13回・14回 -12.1	○発表, ディスカッション(村尾・時任) ○リフレクション	

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	災害社会学	開講学部	社会学部
担当教員	今井信雄・社会学部教授、室崎益輝・元関西学院大学災害復興制度研究所所長(神戸大学名誉教授)、山室敦嗣・兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授ら複数の講師が担当。	定員	
履修基準年度	1年生	開講時期	春学期
概要	防災を第一線で研究してきた室崎益輝・元関西学院大学災害復興制度研究所所長(兵庫県立大学防災教育センター特任教授)や山室敦嗣・兵庫県立大学大学院准教授らが講師となり、災害が社会をどのように変えてしまうのか、また災害と社会の関わりについて考えることで今後の社会の在り方について考える。具体的には阪神・淡路大震災、東日本大震災や福島での原発事故での事例をもとに、社会がどれだけ変わったか、さらには被災者の人生を災害がどのように変えてしまったのかを考える。		

<授業スケジュール>

回・日付	内容	備考
第1回	災害社会学を学ぶにあたって(今井)	
第2回	災害のメカニズムと社会要因(室崎)	
第3回	災害の歴史性、地域性、階層性(室崎)	
第4回	防災のための社会文化、社会制度(室崎)	
第5回	地域コミュニティの防災力(室崎)	
第6回	災害とリスク	
第7回	災害ボランティアと情報化1(溝口)	
第8回	災害ボランティアと情報化2(溝口)	
第9回	原子力開発と地域社会(山室)	
第10回	原子力災害をめぐる地元住民の対応(山室)	
第11回	原子力災害とコミュニティ形成(山室)	
第12回	原発事故後の福島:生活と健康への影響(松谷)	
第13回	原発事故後の福島:地域問題と政治(松谷)	
第14回	災害社会学の射程(今井)	

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	社会探究実習 (広島・江田島平和 フィールドワーク)	開講学部	共通教育センター ※全学部共通科目
担当教員	木本浩一教授 (2016年度着任、SGU招聘客員教員)	定員	30名
履修基準年度	1年生	開講時期	秋学期集中: 2月15日～2月20日
概要	原爆投下に至るまでの日本の近代化の流れと軍との関係にフォーカスし、平和について考える。授業では2月に約5日間、広島市内、江田島、呉の3拠点での人々の平和に関する意識や思いを調査する実習を予定。江田島では、海軍遺族会、被爆者の会等からの聞き取り調査、呉では呉三津田高等学校との連携授業も実施予定。		

科目名	社会探究実習 (瀬戸内海・豊島環境 フィールドワーク)	開講学部	共通教育センター ※全学部共通科目
担当教員	木本浩一教授 (2016年度着任、SGU招聘客員教員)	定員	各30名
履修基準年度	1年生	開講時期	春学期集中: 8月7日～8月12日 秋学期集中: 2月27日～3月4日
概要	瀬戸内海にある豊島でのフィールドワークを通じて日本の近代における瀬戸内海開発やその中ではぐくまれてきた島の世界(生活を含む)について探究する。具体的には産業廃棄物の不法投棄現場となった香川県の豊島(てしま)の産廃問題にフォーカスし、現場視察、住民会議メンバーおよび住民への聞き取り調査等を実施する。春学期、秋学期ともに約1週間のフィールドワークを実施。フィールドワークの準備として事前学修会を数回、事後にも成果報告会を実施予定。フィールドワーク調査では、ライフストーリー手法を用いて、住民より島への愛着や生活文化等の聞き取り調査を実施することを通じて、過疎化が進む島の現状、観光化の波、都市と地方の格差/負担の押しつけなどの社会的課題についても探究する。		

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	比較社会演習A	開講学部	社会学部
担当教員	陳 立行・教授	定員	10名程度
履修基準年度	2年	開講時期	春学期集中： 9月4日～9月10日
概要	<p>関西学院大学社会学部と台湾の国立高雄第一科技大学外語学院応用日語系との協定に基づく社会学部独自の協働学習型プログラム(使用言語:日本語)。本演習では、一つのテーマについて、課題等を発見し、その解決策等を見出すために両校の参加学生がフィールドワークやグループ発表等の協働学習を行う。これらの取り組みを通じて、多角的な視点からのアプローチ及び異文化理解の重要性を実感し、各自の専攻分野/領域の学びをより深めるとともに国際的感覚を養うことを目的とする。</p> <p>2016年度のテーマは「多民族共生」とし、異なる文化背景と社会経験を持つ両校の学生同士が、協働で文献調査、問題提起、議論、フィールド調査を行い、国家と民族の関係を理解する上で、「多民族共生」に関わる課題を探り出す。その課題の解決方法については、行政、地域社会、家族等の取り組みを調べることで、多民族共生を実現するメカニズムを理解する。さらに、協働作業の実践を通じて、異文化コミュニケーションの力を身につける。なお、2016年度は台湾の高雄第一科技大学にて実施し、2017年度は「比較社会演習B」として関西学院大学にて実施する。</p>		

<授業スケジュール>

回・日付	内容	備考
【事前学習(2回)】	両校別々に実施	関西学院大学にて実施
■1回目	文献調査の指導	
■2回目	文献調査結果の発表	
【協働学習(5日間)】	両校の学生が合流の上、協働学習を実施	高雄第一科技大学にて実施
■1日目	座学とワークショップ ・両校の学生が、それぞれ事前に準備したテーマについての発表をする。 ・両校混成のグループを編成する。 ・ワークショップを通じて、各グループにて、フィールド調査の項目を作る。 ・問題関心と調査項目をグループごとに発表する。 →担当教員は学生の発表を踏まえ、フィールド調査の内容と手法について指導する。	
■2日目	フィールド調査の実施 ・原住民の政策立案及び実施に関わる行政機関への訪問とインタビュー(高雄市役所、NPOなど) ・関連民間機関への訪問(企業など)	
■3日目	フィールド調査の実施 ・原住民居住地域に行き、その地域の生活活動と生産活動について調査を行う。 ・グループごとに、原住民、移住民、地域組織、店などに対して対面調査を行う。	

2016年度 主な新設科目一覧

■4日目	座学とワークショップ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに調査結果を整理する。 ・グループごとに調査結果発表の内容を固める。 ・グループごとに発表のPPTを作る。 	
■5日目	研究発表と教員の総括	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに研究発表を行う。 ・学生の議論と講評を行う。 ・両校の担当教員による講評と総括 	
【事後講義(1回)】	両校別々に実施	関西学院大学にて実施
■1回目	各人の専攻／領域の学びに「どのように繋げ、深化させていくか」について、レポートを作成の上、個別発表を行う。	

科目名	法学・政治学グローバル演習inタイ	開講学部	法学部
担当教員	水戸考道・教授	定員	12名
履修基準年度	2年以上	開講時期	春学期集中(8または9月の間の3週間)
概要	法学部が新たに実施する国際交流プログラム。タイ、パヤップ大学、エレファントネイチャーパーク(象保護施設)での異文化コミュニケーションスキル研修とボランティア等を通じて、低開発国の現状把握や異文化について理解を深める。		

科目名	法学・政治学グローバル演習inインド	開講学部	法学部
担当教員	水戸考道・教授	定員	10名(未定)
履修基準年度	2年以上	開講時期	秋学期集中(10～11月の10日間)
概要	インドのジャワハルラール・ネルー大学へ約10日間、フィールドワークし、人間の安全保障をテーマにネルー大学の学生とのディベートなどを実施する。		

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	日本のビジネスと JETROの役割～ FTA/TPP時代の関西 経済～	開講学部	共通教育センター ※全学部共通科目
担当教員	市川顕・准教授（現産業研究 所教員、2016年度よりSGU招聘 客員教員）	定員	
履修基準年度	1年	開講時期	秋学期
概要	<p>JETRO（日本貿易振興機構）職員が講師となり、「日本企業の国際ビジネス」に関する論説の執筆を行うことを通じて、JETROが今日の社会において果たしている役割について、「関西の地域振興と国際化」を共通のテーマとして、学ぶ。講義ではJETROが果たしている役割について、次の5つのテーマでの講義が予定されている。1:日本の国際ビジネスが置かれた国際的環境 2:JETROの役割 3:JETROの視点から見た日本の産業 4:JETROの視点から見たグローバル人材像 5:FTA/TPP時代における日本経済</p> <p>全14回の授業のうち1回(1コマ)は3時間相当のフィールドワークをおこなう。具体的には、JETRO大阪事務所を視察。見学し、JETRO職員との意見交換を行う。</p>		

<授業スケジュール>

回・日付	内容	備考
第1回	ガイダンス(市川顕)	
第2回	JETROとは何か、JETRO職員であるということ(市川顕)	
第3回	中央アジアにおけるビジネス環境(梅津哲也)	
第4回	欧州におけるビジネス環境(山口大介)	
第5回	ASEANにおけるビジネス環境(池部亮)	
第6回	TPPとはなにか(椎野幸平)	
第7回	日EUのEPA/FTAについて(市川顕)	
第8回	農林水産・食品分野企業の海外展開について(市川顕)	
第9回	ものづくり産業分野企業の海外展開について(市川顕)	
第10回	サービス産業分野企業の海外展開について(市川顕)	
第11回	国際ビジネスにおける知的財産(市川顕)	
第12回	貿易投資相談の現場から(市川顕)	
第13回	地方と海外の地域間交流と地域産業(市川顕)	
第14回	学生の論説へのJETRO職員による講評(北川浩伸)	

2016年度 主な新設科目一覧

科目名	診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム(経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」採択)	開講学部	研究推進社会連携センター
担当教員	山本昭二・経営戦略研究科教授	定員	15人程度
履修基準年度	地域医療機関従事者、医院の経営者、介護関係者など	開講時期	2016年10月～2017年5月(平日の夜間、または土曜日昼間)
概要	<p>少子高齢化が進む中、行政は地域包括ケアシステムの実現を提唱している。地域医療の充実をはかるため、病院、診療所などで働く人材育成を目的に、座学&ケーススタディ方式で単位履修型のプログラムを提供する。「医療機関事業承継」「地域利用経営」など。</p>		

<授業スケジュール>

※詳細は別紙参照。